

お月見どろぼう～月の小さな使者参上！～

【内容・狙い】

【内容】

- 午前中は君亀の施設で十五夜のお話、レクリエーション、お月見どろぼうの練習
- 午後からお月見どろぼうに出発。協力してくれる地元の家からお供え物を持ち、家の方からお月見どろぼうや亀山地域のことについてお話をしてもらう

【狙い】

- 「お月見どろぼう」という風習を残したい、伝承したい
- 地域との結びつきを深めたい



お供えの様子

【成果と課題】

【成果】

- 初めは、馴染みのない風習のためか、緩やかな集客だった。今年（令和7年10月開催分）はちいき新聞の取材の影響も合わせ即埋まるほど認知度が上がった
- 参加者の満足度も高く、半分以上がリピーター

【課題】

- リピーターが多く、新規参加者の獲得が課題



ちいき新聞より取材を受け9月号に掲載（令和7年9月5日発行）



地域の方にお話を聞く子どもたち



実際にお月見どろぼうをする子どもたち

【参加者の声】

- とにかく楽しい！また来たい！
- 同じ県内に住んでいるのに初めて知りました
- 自分（保護者）が体験したことがあったので、親子の会話の種になった

【地域の方より】

今は準備をしても子どもが来てくれないことがほとんど。このイベントではたくさんの子どもの声が聞こえ、賑やかで良かった